

下水道総合計画見直し及び
下水道事業経営の在り方等検討委員会
議事要録

内容 第4回

日時 令和4年7月27日(水)

午後7時から午後8時30分まで

場所 武蔵野商工会議所5階

第1・2合同会議室

出席委員6名

1. <次第1> 前回委員会での意見への対応について

<次第2> 武蔵野市下水道総合計画（案）について

○事務局 <次第1>、<次第2>を合わせて資料1にて説明

- ・ 計画の概要の記載方法の修正
- ・ 計画の見直しのスケジュールの記載方法の修正
- ・ 伝わりづらい表現の修正、補足
- ・ 第5章の全体構成の修正
各施策に対して、①短期、②中長期という形で取組事項を記載するよう修正
(再掲)の表現を取りやめ、基本方針の視点に合わせるよう本文を修正
- ・ 第5章の全体構成の修正に伴う各章の修正
- ・ 第6章の記載について

[質疑]

- 委員長 下水道総合計画の今後のスケジュールについて確認しておきたい。
- 事務局 本日配付した資料1について、8月10日までにご意見をいただければ、8月31日開催予定の第5回委員会までに反映して報告する。その後は、事務局で図の修正をし、経営の在り方等の検討結果を反映させていく。2月実施予定のパブリックコメントまでに、新たなご意見をいただければ反映していく。
- B委員 修正予定となっている図や、P.5-5の表5-2は、次回委員会の8月31日までに仕上げ、もう1回意見を聞くことになるのか。
- 事務局 P.5-5の表5-2については、8月31日に示す。修正予定の図は、外部委託して作成するため、8月31日には間に合わないが、パブリックコメントまでには、作成する予定である。
本文の内容としては、次回委員会の8月31日の時点で一旦固めたい。ただし、経営の在り方等の検討結果を、下水道総合計画の内容に反映させ、整合を図っていく部分もあるので、確認はさせていただく。
- 委員長 本文の内容と図は、一体化しているものなので、両者の完成型が出てきて、それに意見して、修正するという作業は必要である。図の修正によっては、内容も変わる可能性がある。修正予定の図も多いので、本文内容を8月31日の時点で固めるという事に拘らない方が良い。

- 事務局 承知した。
- B委員 第5章では、①短期、②中長期と分けて記載している事業とそうでないものがある。短期と中長期で対応が変わらない事業は、今後も一貫してやっていくということなのか、それとも、そこまで検討が進んでいないということなのか。区別があるなら、それが分かるような記載とした方が良いのではないかと。
- 事務局 事業者への指導や市民への啓発などの事業は、今後も一貫してやっていく事業である。一方で、現段階ではまだ調査・研究をしており、具体的な段階まで踏み込めない事業もあるので、2種類ある。それを分けるような記載は考えていない。
- 委員長 第5章のリード文は、第4章の内容の繰り返しである。第6章は、見やすくまとまっているが、言葉で説明した内容が第5章になっている。第4、5、6章を分ける必要があるのか。第5章の説明の中に、第6章のグラフがあると短期、中長期の区別も分かりやすくなり、読みやすくなるのではないかと。第4章も1ページしかないから、第5章と一緒にできるのではないかと。
- 事務局 第4章は、これまでの現状と課題を踏まえた上で、改めて方針として見直したという位置づけで、この順番になっている。
- B委員 第5章と第6章が逆のほうが、全体像を描いてから、個別の施策を見られるので良いと感じた。第4章については、基本方針に基づいて事業計画の枠があり、それに基づいて個別の施策があるという流れになっているので、今の順番で良いと思う。
- A委員 第2章と第4章のボリュームが少ないので、これを一緒にしてしまう方が読みやすいように感じる。第2章の基本理念の後に、第4章の基本方針を持ってきて、その後、各事業についての現状と課題、主な施策という流れの方が良いのではないかと。
- E委員 基本方針は、この2023の基本方針であって、基本方針を踏まえて、現状と課題を有しているわけではないので、第2章の後に第4章を持ってこない方が良いのではないかと。第2、4章は、余白がありすぎて読みにくいことや、第6章の順番については、改善した方が良い。
- 事務局 第4章を頭とし、第5、6章を融合させて、もう少し大きく全体感を捉えながら、個別の内容に入っていくという形に修正する。
- E委員 P.3-11の図3-10は、インフラの経過を示す図としてよく見かけるが、時間が経てば

100%になる。実際は、改築工事等の努力で改善されるはずである。その改善も含めた良い示し方はないのか。

- 事務局 図3-10は、昭和40年代に集中的に整備したため、急速な老朽化が見込まれるということを示す目的がある。公営企業会計に移行し、管きょ改善率という新たな指標を決算書で示している。管きょ改善率は、第5回以降の委員会で経営状況の一部として示すことはできる。ただし、令和2年度から、ストックマネジメント計画に基づき事業を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、下水道総合計画(2023)の中に管きょ改善率を記載することは難しい。

- 委員長 P.5-10で、グリーンインフラに関する記載があるが、今後、武蔵野市としてどのように展開していきたいか、もう少し書いた方が良い。
- 事務局 グリーンインフラを公共が整備していただくだけでは普及しないと考えている。公民連携など、幅広く事業展開していくことの必要性は感じているが、どういうものをどういう形で、その仕組みを提供していくかは、書き込める状況ではない。
- C委員 グリーンインフラのほかにも、浸水対策や目標流出係数への対応など、やるべき事業がある中で、市民、事業者等が協力して成し遂げていけるような意識を持てるよう、将来が明るくなる夢のある事業などを記載できると良い。
- B委員 将来、明るくなるような事業でいうと、グリーンインフラの部分で、短期ではなく、中長期としてもう少し具体的に書けることがあるのではないかと。下水道に雨を入れないということで、市民ができることや民間ができること、公共でできることが、今もたくさんあるのではないかと。それがグリーンインフラということで、国としても推進している。雨どいの非接続やレインガーデンなどを研究するなどの記載はできるのではないかと。
- 委員長 他自治体で導入した事例を掲載するなどでも良いかもしれない。

- 委員長 P.5-16で、紙おむつに関する記載がある。具体的に検討を進める予定があるなら、このくらい踏み込んで良いと思うが、少し踏み込み過ぎなのではないかと。
- 事務局 本市のほとんどが合流式下水道であるため、河川への影響が大きな課題である。現時点で具体的な予定がある訳ではない。
- B委員 紙おむつの記載している部分の見出しを「人口減少・少子高齢社会への対応」とし

ているが、紙おむつの下水道への受入れというのは、人口減少・少子高齢社会への対応に結びつくのか。

- 事務局 下水道施設自体の有効活用として、国が様々な視点で検討している。紙おむつ以外では下水熱もその一つである。介護の現場では大人用紙おむつの処分などがかなり重労働になっており、今後高齢化社会が進む中で、その量はさらに増えていくだろうということで、検討されている。モデル事業を実施して、検証も行われている。
- B委員 社会状況を踏まえた背景を追記すると結びつきが理解できる。
- A委員 紙おむつというごみを下水に流すということは、環境的に問題はないのか。
- 委員長 環境的問題とは両立しないだろう。あくまで「人口減少・少子高齢社会への対応」という切り口になる。環境政策としてはプラスになることではない。
- 事務局 本市の場合、9割が合流式下水道で汚水と雨水を一緒の管で流している。下水道に流れた生ごみや紙おむつが、雨の降った日に河川に出してしまうというリスクがある。
- A委員 武蔵野市では、あまりメリットがないように聞こえる。もう少し記載内容を軽くしても良いのではないか。
- E委員 紙おむつに関する事業には期待したいが、武蔵野市での実現は難しいかもしれない。他自治体で検討されているが、武蔵野市では課題があるため、慎重に進めていくなどの記載とした方が良い。ごみが減れば、一般会計の負担が減るなどのメリットもある。
- 事務局 視点としては残していきたいので、ご意見を踏まえて修正する。
- E委員 P.3-10のBCPの記載は、現在は訓練を行っていないように読める。訓練をやっているなら、「定期的な見直し」などの文言を入れた方が良い。
- 事務局 現在も訓練を行っているので、ご意見のとおり修正する。
- 委員長 P.3-25の図3-27で、技術系職員が減少傾向ということは分かるが、下げ止まっているようにみえる。近年の状況はどうなっているのか。
- 事務局 本市では、昭和62年に普及率100%を達成し、その後は維持管理の時代となり、徐々に減少している。平成25年頃から、合流改善施設や北町雨水貯留施設、小中学校の雨水貯留浸透施設の整備を行い、令和元年度からは、ストックマネジメント計画を策定して事業を進めていかなければならないということで、近年は若干、技術系職

員は増えているが、全体の傾向として減少してきた。また、市全体としても減少傾向であるが、下水道事業は、他のインフラより老朽化が進んでいるため、技術系職員を他から集めている状況である。

- 委員長 減少しているという直線が単純すぎる印象を与えるため、もう少し具体的な状況を補足した方が分かりやすい。
- A委員 下水道総合計画では、人材育成や技術力継承、広域化・共同化などにも触れているため、技術系職員がどれくらい足りていないのかなど適正人数を記載できるとさらに分かりやすくなる。
- 事務局 具体的な数字を記載することは難しい。今の人材で安定して事業を行っていくために長期包括契約方式や広域化・共同化などを積極的に検討していく必要がある。また、野川水再生センター（仮称）への切替えなどの大型事業は、中小の自治体だけでは対応が難しい。東京都などの外郭団体である東京都都市づくり公社への行政代行も考えておく必要がある。人口が減っている中で、職員を増やすことは難しいので、今ある人材で効率的に事業を進める手法を、特に公営企業会計になったからこそ、さらに考えていかなければならない。

- 委員長 第3章の構成は、1. 1、1. 2、1. 3、2. 1、2. 2、2. 3・・・と続いているが、左の数字は、基本方針の数字とリンクしている。第3章は、基本方針の前の章なので、数字をリンクさせても分かりづらい印象を受ける。素直に、1、2、3・・・でも良いのではないか。
- 事務局 検討する。

- 委員長 全体を通して、図表が多く挿入されているが、本文で参照する形になっていないため、括弧書きで、「(図●参照)」などを追加すると分かりやすくなる。
- 事務局 ご意見のとおり修正する。
- 委員長 写真も多く挿入されているが、具体的にどこの場所の写真かなどを追記すると分かりやすくなる。また、できるだけ武蔵野市内の写真を使った方が良い。